

1 自己評価及び外部評価結果

(外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100019		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名	グループホーム松風みはま【ユニット名:みかん】		
所在地	和歌山県日高郡美浜町和田824-9		
自己評価作成日	平成22年7月5日	評価結果市町村受理日	平成22年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092100019&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成22年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①理念に沿った介護が出来るように日々努めています。
②笑顔が引き出せるような介護を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯の真ん中、自然環境に恵まれた環境の中に2階建のホームの建物がある。医(必要に応じた適切な医療)・食(住み慣れた地域の安全でおいしい食事の提供)・住(安全で衛生的な環境の下、生きがいある生活の提供)を3本柱の社訓としている。ゆっくりとした関わりを持つことを心掛けており、館内には心がなごむような風景写真が飾られ、全体的にゆったりとした時間が流れる空間となっている。職員は入居者の話にしっかりと耳を傾けながら、日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基にユニットで「寄りそって手を取り合って暮らそうよ」という理念を作り、職員全員で理解し共有することを介護目標としてより良いケアに向けて日々取り組んでいます。	ユニット別に独自の理念「ゆったり楽しくみんなでいこか」「寄り添って手を取り合って暮らそうよ」を作っている。台紙に割り箸で作った文字を貼った理念を各フロアの目のつくところに飾り、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の敬老会への参加や老人クラブの食事会への参加も支援しています。また、ホーム周辺を散歩される方や隣のハイツに住まれている方とは一緒に散歩をしたり声を掛け合ったりしています。	毎月、大正琴の演奏会や定期的な陶芸教室への参加を地域住民に呼びかけている。近隣の保育所の園児との交流を楽しみにしている入居者も多い。近隣のハイツの住民と散歩する機会も持っている。	田園の中の施設で、周辺にハイツ以外の民家はないが、入居者が和田地区の一員でいられるように、職員がまず町内会行事などに参加して、区民との接点をもつことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の家族や、地域の方々に向けた研修を計画しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに実施し、会議で出された意見は職員間で共有して取り組んでいます。	地域の行政担当者、婦人会々長、近隣者、入居者家族、入居者らが参加し、2ヶ月に1度日中に開催して、事業所でのケア内容を中心に話し合っている。	固定のメンバーだけでなく、他の人も参加できるような取り組みに期待したい。また、事業所側から地域や行政に望むことも提言して話し合いを持つことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の生活状況等について本人、家族の不安を解消するため、市町村の担当者と随時相談を行ないながら進めています。	町の担当職員と事業所職員は、気軽に相談できる「顔の見える関係」が築かれている。困難事例対処についての相談にも応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に学習する機会を持ち職員全員が十分理解し、契約書に身体拘束をしない旨記載し同意書を頂いています。	玄関の鍵は夜間（PM6時～AM5時）以外、鍵をかけていない。ホーム内で身体拘束推進委員を2名設け、入居者への言葉による行動制限にも気を配っている。ベッドから転落しがちな入居者には落ちない工夫や職員の見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令についての情報を収集し、定期的に学習する機会を持っています。また日々のケアでは入浴時や清拭時に身体状態を観察し、異常がないか、虐待がないか見過ごす事がないように努めています。		

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:みかん

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての情報を収集し知識を習得するよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書については入居時に十分説明を行なっています。その際に、一方的な説明にならないように、疑問点や不安なことについては家族からお聞きし、納得して同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は入居者様や家族と日頃から十分なコミュニケーションを図り、話せる環境、関係作りに努めています。訴える事が出来ない入居者には会話の中で聞き取りを行なうようにしています。	入居者ごとに1ヵ月の様子と写真を家族宛に郵送している。家族が来所した際、玄関正面に設置している苦情・ご意見箱や、各居室に置いている個別ノートに意見を記入してもらっている。	家族の立場では意見を口に出しにくく消極的となりがちである。無記名のアンケートなど記入者が特定されないことがない配慮も望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行い、職員の意見・提案を聞く機会を設けています。また、職員の意見・要望箱も設置しています。	職員会議やユニット会議で多くの職員の意見を聞いている。朝礼の時にはもちまわりで1分間スピーチを実践しており、管理者は職員の考え方・関心事を聞くようにし、職員向けの意見・要望箱も設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者・管理者・ユニットの代表者は、報告や評価をこまめに行い互いの役割に対する理解を深めていくよう努めています。また、各職員に役割や努力に応じた福利厚生制度を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年2名の実践者研修・管理者研修への参加を推進し、資金援助を行い、社員の質、能力、知識の向上に積極的に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社の理学療法士が介護職員の為に介助法やリハビリ法の勉強会を定期的実施し、他施設にも参加を募り交流しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に本人との面接を数回行う事で信頼関係を築きながら、介護職員の意見や提案を取り入れ不安なこと、求めていることを受け止める努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時には十分な時間をかけて面談やご自宅を訪問し、家族との信頼関係を築きながら不安なこと、求めていることを受け止め、我々にできることを提案し協力し合える関係作りができるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居、相談の際には本人・家族のニーズを見極めて、適切なサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今までの生活歴を知り、本人を尊重する事で多くのことを学び、信頼関係のもと支えあう気持ちで接するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを共有し協力を得ながら生活して頂けるよう努めまた、本人には手紙を書いて頂くなど家族関係が薄れないように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人が面会に来られた際にはゆっくりと過ごして頂けるように心がけています。またドライブ等で入居者の馴染みの地域、場所に出かけ思い出話を聞かせて頂いています。	誕生会には家族も多く集まり、入所者と思いの時を過ごしている。ドライブでは、以前住んでいた家や、昔、入居者がよく行った海・山にもよく出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ作りなど共同作業ができる時間を積極的に取り入れ、職員が間に入りコミュニケーションがうまくとれるよう心がけています。また、入居者同士もお互いの居室を訪れて交流されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、家族の相談には応じています。また馴染みの関係であった入居者と一緒に退去された本人に面会に行ったりと、関係を継続していけるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と十分コミュニケーションを図り、継続した信頼関係の中で思いが十分聞き入れられるように努めています。	本人の様子や言葉を大切に聞いて一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。入居者ごとに各職員からの情報をセンター方式も使って記録共有し、本人本位の関わりに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には家族より、本人の今までの生活リズム等の情報をできる限り収集し、それを元に入居後は本人や家族の意向を状況に応じてプランに取り入れられるよう努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族やケアマネージャー、友人等より情報を収集し趣味や趣向を取り入れ、残存する機能が低下する事を予防しメリハリのある生活リズムを築き継続できるように支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は主治医や薬剤師に対し、こまめな報告・相談を行なっています。その都度本人、家族の意見を取り入れ計画を作成し、本人の状態の変化に柔軟に対処できるよう随時ケアカンファレンスを行なっています。	管理者・職員は、各人が持つ情報を共有し、本人をよく観察して家族の意見も取り入れながら、職員一同で介護計画を作成している。必要に応じて薬剤師や主治医とも相談している。	薬の服用方法などで、職員間でのサービス提供の違いに入居者が戸惑う事がないように工夫して、介護計画に基づいたケアを提供することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務記録を元に日々の申し送り時に職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の自宅に職員と共に訪問したり、病院への受診支援を行なっています。		

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:みかん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方の協力や地域の警察官の方にも随時訪問をお願いしており、顔なじみになっていただいています。また、様々なボランティアの方々にも訪問していただいております、ご協力いただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望される主治医に依頼し、定期的な訪問診療や定受診を実施しています。	希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族ができないときは通院に同行し日頃の様子を医師に伝え適切な受診を支援している。希望があれば、かかりつけ医の往診が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通常の業務では看護師・介護職が連携して健康管理を行い、必要時は主治医と相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にはできる限り面会の時間を作り不安や不穏を軽減しスムーズに治療が出来るよう支援する事により早期退院につなげています。また、医療スタッフとの連携、退院後の対処法など情報交換を行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後、信頼関係が築き上げられてから本人・家族に終末期のあり方について話し合う機会を設けています。入居時に説明は行なっていますが、身体の変化によりその時点のできること・できないことを家族や主治医と連携を図りながら取り組んでいます。	終末期の意向は入居後、お互いの信頼関係が築かれた時点で、ユニット別に家族と話し合いの場を持っている。医師の助言をもらい、全員で方針を共有しながらその時々で柔軟な対応を行うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に日高広域消防の強力で救急車が到着するまでの応急手当を学習する機会を設けています。また事故発生時の連絡方法については職員の目の届く所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には警察・消防・役場へ通報し協力が得られるような働きかけをしています。また日高広域消防の協力で火災時の避難訓練を定期で実施すると共に自主的な訓練も行なっています。	入居者も交え、火災時の避難訓練や毎月の自主的訓練を積み重ねている。豪雨などで施設が孤立しないように、各関係機関との協力体制は出来ているが、地域住民の参加まではない。	災害時、夜間は職員が手薄になるため、地域(和田地区)住民の協力がより得られるよう、互いの協力協定を結ぶなど、地域の中で共に支え合う関係作りを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は周知徹底し、対応については一人ひとりを尊重して声かけを実践しています。	個人のプライバシーに配慮して希望する入居者には居室の鍵を渡している。職員は、入居者一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような声かけに気を配り、職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出・散歩・買い物の機会を多く設け、買い物の際には食べたいものなどの自己決定をいただいています。また、入浴・食事なども本人の希望する時間帯やペースに合わせた支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念を基に職員全員が「個人のペース」を大切にするよう心がけています。日々入居者の希望を聞き、できるだけ希望に添えるよう支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	開設以来、入居者の家族のご好意によりボランティアで理美容をいただいています。そのため、行く方は数名にとどまっていますが、美容院に希望に応じ本人の望む店に行く体制ではあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際には嗜好を聞いて取り入れています。またお料理が好きな方には積極的に参加して頂き作る楽しみも支援しています。職員も同じ食事を一緒に会話を楽しむよう心がけております。	入居者の力が発揮されるよう、調理や皿洗い、お店から食材が届いた際の検品などをしてもらっている。入居者のできることを職員は把握し、力を発揮できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を立てる際にバランスよく食品が摂取できるように努めています。また、水分や食事量については職員全員が把握できるよう毎食後チェックし記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕の口腔ケアを実施しています。また、外出後はうがいを促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの力を見極め、パターンを把握して、パターンに沿った随時誘導を行い快適な排尿・排便が行なえるように支援しています。	入居者の排尿パターンを把握できるよう、記入様式を整備している。トイレへの誘導はそれをもとに職員がさりげなく行っている。パンツ式おむつの使用はなるべく夜間のみとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1800ccを目標とし水分摂取の進めと1日の水分量の把握、食物繊維の摂取、身体を動かすレクリエーション等を取り入れています。少しでも多く摂取できるようおやつなども工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望時間に入浴を実施しています。入浴拒否される方に対しては体調の良い時間帯に誘導したり、それでも拒否される方については清拭・足浴等実施しています。	10:30～19:00の希望の時間に入浴することができる。入浴介助のいない入居者にも一人ひとりの希望を十分に把握し、入浴を楽しめるよう見守っている。浴槽は広く、入居者が2人で入浴することもできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方に対してはお茶を勧め、会話をしながら気分を落ち着かせゆっくり過ごしていただくような支援をしています。休息に関しては、体調不良でない限り本人の意思決定に沿って自由にして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作成し職員一人ひとりが内容を理解し間違いのないように管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り等に家事への参加、趣味の洋裁や編み物、畑仕事など思い思いの時間を過ごされています。嗜好品に関しては主治医、家族の了解の下でお酒やおやつ等も楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を毎日散歩される方や一時的な帰宅、ドライブを楽しむなど日々入居者の健康状態に配慮し支援を行なっています。又、季節ごとに花見・ピクニック等、日頃出かけられない場所を入居者を含め、皆で決めて出かけています。	個別に思い思いの時間を過ごせるよう支援しており、時には職員とドライブに出掛けたりして日常的にほぼ入居者全員が外出している。散歩の途中には近所の人との会話も楽しむことができている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力により小額の小遣いを本人が所持管理し、日々の買物時には本人の欲しい物が買えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の思いを引き出し傍で支援し、家族宛に手紙を書いていただくなど疎遠にならないよう努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者は体温調節が困難な為室温には常に注意しています。西日がつよい時間帯にカーテンで光の調節を行なっていますが、出来るだけ季節を感じていただく為外の景色が見えるようにしています。	玄関先に季節感漂う金魚鉢が置かれている。居間には、一段高くなった畳の間があり各々が自由にくつろげる場となっている。窓からは、田園地帯が臨め、季節の移ろいが感じられる。2階の壁一面に特定の入居者の作品が飾られている。	どの入居者にとっても普段の家庭での生活に近い雰囲気となるような共有空間づくりが望ましい。作品の展示や、展示方法について職員間で検討し、工夫することを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみのスペースには座椅子や枕を使用して、昼寝をされる方や、畳スペース以外にもソファを準備し、談話スペースを多く取り入れ、一人ひとりの自由な過ごし方が出来るよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の馴染みの家具や寝具を持参していただき、家族と本人の写真を壁に飾っています。	冷暖房器具とカーテン以外は入居者の使いたれた家具や寝具が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動・入浴時は安全で本人の力が十分活かされるように工夫、介助しています。家庭での日常的な作業として家事や調理等を一緒に行ない、説明を必要とする際には時間をかけるよう努めています。		